

4月14日 土淵小学校舎完成感謝の会

校舎がぴかぴかにリニューアル

同感謝の会は大規模改修工事が終了した土淵小学校で開かれ、同校児童77人と教職員、4事業者らが出席。児童が工事関係者に歌や寄せ書きなどを贈り、感謝を伝えました。



記念撮影する児童と教職員、工事関係者

工事は、築40年の校舎の長寿命化を目的に平成30年7月から実施。約1年半をかけ、新築校舎のようにリニューアルされました。

4月18日 綾織保育園入園・進級を祝う会

期待に胸膨らませ新年度開始！

同園の入園・進級を祝う会は新園舎で初めて開かれました。0～5歳児38人が新年度をスタート。子どもたちが園歌を披露したほか、園歌の絵を寄贈した菅原勝美さん(綾織町)に感謝状を贈りました。



園児の元気な声がホールに響きました

今年、新型コロナウイルス対策のため、市内各所や学校の入園・入学行事は規模を縮小して開催されました。

4月10日 (一社)遠野ふるさと公社経営改革等に関する連携協定

公社の経営改革に7者がスクラム

市の第3セクター・一般社団法人遠野ふるさと公社(本田敏秋理事長)は、経営改革を着実に実行するため、7者による連携協定を締結しました。協定を結んだのは、遠野ふるさと公社と市、岩手銀行、東北銀行、北日本銀行、花巻農業協同組合、官民ファンドの観光産業化投資基盤(東京都)。連携の内容は、公社の経営改善▷地域商社機能の強化▷6次産業の推進▷産

直施設を中心とした農業振興など。7者が相互に連携・協力し、公社の経営改革や産業振興、新たな魅力づくりに取り組む体制を構築しました。

同公社は累積赤字を受け、平成28年に経営状況を分析。約4年間、検討を重ねてきた改革案は本年3月30日、同公社理事会で全会一致で可決されました。今後は、地域商社機能の充実・強化を目指します。

4月5日 家族らに囲まれお祝い会

松崎町の菊池源之助さん100歳

源之助さんの100歳を祝う会が自宅で開かれ、家族らが祝福しました。菊池寿健康福祉部長から記念品が贈られると、源之助さんは笑顔で受け取りました。源之助さんは、



家族らから祝福される源之助さん(中央)

20歳のときにウメさん(故人)と結婚。戦前は農業を行い、兵役を終えてからは農協に勤めて家計を支え、4人の子どもを育て上げました。

4月16日 「遠野市×ブラジル」オリジナルフレーム切手贈呈

ブラジルとの交流を切手に

日本郵便株式会社は、東京2020五輪・パラリンピック競技大会を契機とした本市のホストタウン交流を記念し、「遠野市×ブラジル連邦共和国ホストタウンフレーム切手」を制作。菊池浩康綾織郵便局長が



切手を贈呈する菊池局長(右)と本田市市長

本田市長に完成を報告し、贈呈しました。切手は500部限定で、市内11郵便局と都内2局で販売中です。



1_市の第三セクター・遠野ふるさと公社の経営改革等の連携協定を締結した関係者 2_市長臨時記者懇談会が開かれ、公社の経営改革等の連携協定と改革案が公表されました

令和元年度優良少年消防クラブ表彰「特に優良な少年消防クラブ」地域に根差した消防活動を継続し、総務大臣賞受賞

宮守小学校少年消防クラブ

宮守小学校少年消防クラブは、令和元年度「特に優良な少年消防クラブ」として、総務大臣賞を受賞。全国4,442団体のうち28団体に選ばれました。

同クラブは、全国の消防クラブの模範となる優れた防災活動を6年以上にわたって年5回以上実施。定期的な避難訓練を行っているほか、チャレンジ防災スクールなど体験学習に積極的に参加。地域の夜回り活

動も長年継続してきました。また、昨年5月の市消防演習では分列行進・軽可搬ポンプ操法を披露。市民への広い防災啓発と実践が高く評価されました。

多田さんは「みんなで防災活動をいっぱい頑張ったので、立派な賞を取れてうれしい」と受賞を喜び、小原さんは「宮小の誇りを引き継いで、もっと防災意識が高まるようにしたい」と意気込みを語りました。



児童会副会長 小原大和さん(宮守小6年)

児童会長 多田蒼人さん(宮守小6年)

「全国高校生MY PROJECT AWARD2019」全国サミットで快挙！ 「協働性」審査全国1位「ベスト コ・クリエーションアワード」受賞

川前 勇人さん(遠野高3年)

「煌めき～唯一無二の遠野の花火～」

地域課題解決の糸口を探り、実践したプロジェクトを発表する「全国高校生マイプロジェクトアワード」の全国サミットは3月27～29日に開催。各都道府県の予選を勝ち抜いた48プロジェクト99人の高校生が参加しました。

同大会のグループ・個人部門に川前さんが出場。「煌めき～唯一無二の遠野の花火～」と題して、語り部と音楽、花火を組み合わせた新たな演出の実現に向けた探究を発表。全国ベスト3相当となる「ベスト コ・クリエーションアワード」に輝きました。同賞は、主体性・協働性・探究性の審査種別中、「協働性」で全国1位となる快挙。審査員からは、地域や花火師などと連携した探究や、周りの大人にも影響を与える行動力などが高く評価されました。

川前さんは、両親の影響を受け、大の花火好きに。さまざまな花火の魅力

を体感してきました。高校1年のときには、花火の専門知識所有者の証「花火鑑賞士」の資格を取得。花火と一緒に音楽が流れる例は全国にある中、「遠野でしかできないことを考えるようになった」と振り返ります。

探究のきっかけは、遠野高の「新たな『遠野物語』を創るプロジェクト」。同プロジェクト活動を通じ、遠野の花火や語り部などの魅力を伝えたいと考えました。昨年は、遠野みらい創りカレッジや花火師、市民などと協働し、個人で探究を継続。唯一無二の演出を考案し、市商工会に提案しました。

川前さんは、「技術ある花火師さんが作る遠野の花火に、語り部と音楽が加わることで民話のふるさとの魅力が伝えられる。遠野市の目玉となるプロジェクトになれば嬉しい」と声を弾ませました。



「語り部」と「音楽」に合わせて「花火」を打ち上げる演出を考案。写真(上)は、川前さんが撮影した遠野の花火

